

# 平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

| 区分  | 指導       | 題名 | 四季成り性イチゴの摘果と摘花房処理の効果 |             |
|---|----------|----|----------------------|-------------|
| [要約] 「イチゴ-138」では、摘果処理により単価の高い8月以降の上物収量が増加する傾向がある。しかし、「サマーレ」では、これらの処理による増収効果はみられず、処理効果には品種間差が認められる。また、両品種とも摘果、摘花房処理による上物果の平均1果重の増加は認められない。 |          |    |                      |             |
| キーワード   | 四季成り性イチゴ | 摘果 | 摘花房                  | 技術部 南部園芸研究室 |

## 1 背景とねらい

近年、四季成り性品種を中心としたいちごの夏秋どり作型に対する関心が高まっており、県内でも先進的に導入している事例がある。しかし、四季成り性品種の生育特性や栽培管理方法等については十分な知見が得られておらず、その生産技術確立が必要である。

夏秋期の業務用需要に対応するために果実品質の向上、安定生産が必要であり、特性の異なる四季成り性品種を用い、生産性の高い栽培管理方法を明らかにする。

## 2 成果の内容

- (1) 「イチゴ-138」では、摘果処理により上物収量が増加する。また、摘花房処理、摘果と摘花房の組合せ処理によっても上物収量が増加する(表1、図1)。
- (2) 「イチゴ-138」における処理方法として、上物収量が多く、形状の劣るA品果数の少ない摘果処理が適する(表1、図1)。
- (3) 「サマーレ」ではこれらの処理による増収効果は認められない。また、両品種とも摘果処理、摘花房処理による一果重の増加は認められない(表1、図1)。
- (4) 「イチゴ-138」は摘果処理、摘花房処理、または摘果と摘花房の組合せ処理、「サマーレ」では摘花房処理により、8月以降の上物収量が増加する(表2)。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 摘果処理は1花房当たり5果に制限し、摘花房処理は開花中の花房と収穫期の花房をそれぞれ最大3花房とし、株当たり最大6花房に制限した。各処理とも7月下旬まで実施し、以降は放任とした。
- (2) 摘果処理、摘花房処理は、成り疲れ等により草勢低下すると増収効果が低下する場合があるため、初期の草勢を旺盛にしないよう草勢維持に努める。
- (3) 「サマーレ」への摘果処理は不要であるが、摘果作業により収穫出荷作業の労力分散と軽減が図られるため、規格外品の多い花房先端の果実は積極的に摘果する。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等  
夏秋どりイチゴ生産者、指導担当者
- (2) 期待する活用効果  
栽培技術の向上により生産の安定化が図られる。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

H19-08 沿岸地域におけるいちご四季成り性品種の安定生産技術の確立(H19~21)  
(1000)夏秋どり作型における四季成り性いちごの高品質生産技術の確立(H19~20)

## 6 研究担当者

藤尾 拓也、佐藤 弘

## 7 参考資料・文献

種子繁殖型イチゴ F<sub>1</sub> エラン を用いた高冷地での夏秋どり安定生産技術(山梨県総合農業試験場研究報告第13号(2003))

四季成イチゴの収量に及ぼす定植期と花房摘除の影響(東北農業研究 40,301-302(1987))

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 摘果、摘花房処理の違いが株当たり収量に及ぼす影響(2007~2008年)

| 品種                  | 処理方法 |     | 収量(kg/a) |       |      | 収穫果数(千個/a) |      |      | 上物果平均一果重(g/個) |
|---------------------|------|-----|----------|-------|------|------------|------|------|---------------|
|                     | 摘果   | 摘花房 | 上物果*1    | 商品果*2 | 総果実重 | 上物果*3      | 商品果  | 総果数  |               |
| イチイ入-138            | 5果   | 無   | 146      | 285   | 357  | 14.0a      | 37.4 | 58.5 | 10.4          |
|                     | 5果   | 3花房 | 143      | 283   | 360  | 14.2a      | 38.1 | 59.7 | 10.1          |
|                     | 無    | 3花房 | 153      | 284   | 354  | 14.2a      | 36.7 | 58.8 | 10.7          |
|                     | 無    | 無   | 130      | 275   | 345  | 12.7b      | 36.9 | 58.9 | 10.3          |
| サマ-ル <sup>o</sup> - | 5果   | 無   | 213      | 326   | 382  | 20.5c      | 40.6 | 57.3 | 10.7          |
|                     | 5果   | 3花房 | 219      | 340   | 399  | 21.7c      | 43.6 | 61.1 | 10.4          |
|                     | 無    | 3花房 | 263      | 394   | 442  | 25.6c      | 48.7 | 63.1 | 10.6          |
|                     | 無    | 無   | 267      | 406   | 471  | 24.6c      | 49.4 | 68.8 | 10.9          |

\*1 上物果:7g以上の正常果、15g以上の形状の劣る果実 \*2 商品果:4g以上の正常果、7g以上の形状の劣る果実

\*3 分散分析により異なるアルファベット間で有意差(危険率5%)

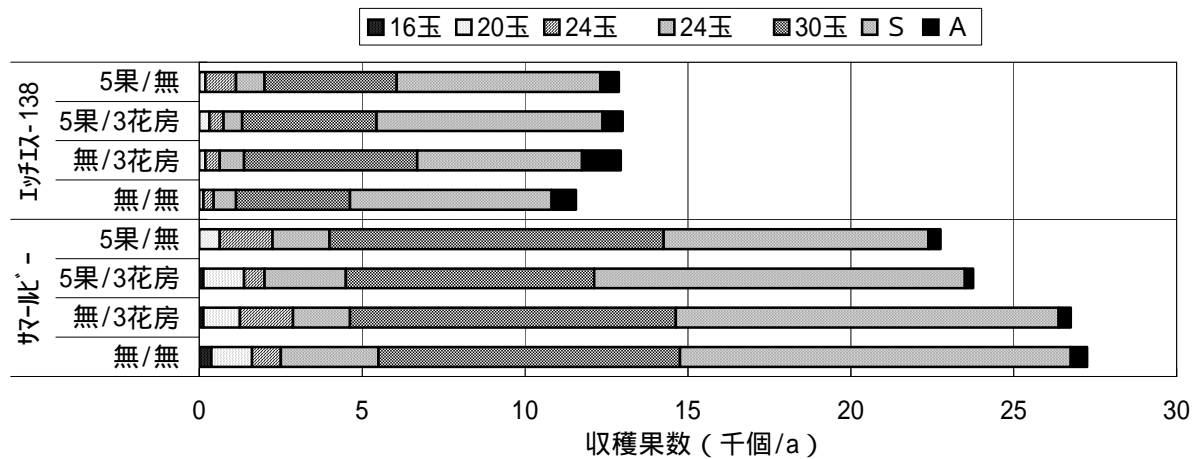


図1 摘果、摘花房処理が株当たり規格別上物果数に及ぼす影響(2007~2008年)

\*16玉:23g以上,20玉:23~18g,24玉:18~15g,24玉:15~13g,30玉:13~9g,S:9~7g

A:15g以上の形状の劣る果実,B:7~4gの正常果及び15~7gの形状の劣る果実

表2 摘果、摘花房処理が株当たり時期別上物収量に及ぼす影響(2007~2008年)

| 品種                  | 処理方法 |     | 月別収量(kg/a) |     |    |    |     |     | 期間別収量(kg/a) |       | 計(kg/a) |
|---------------------|------|-----|------------|-----|----|----|-----|-----|-------------|-------|---------|
|                     | 摘果   | 摘花房 | 6月         | 7月  | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 6~7月        | 8~11月 |         |
| イチイ入-138            | 5果   | 無   | 29         | 61  | 35 | 10 | 9   | 1   | 90          | 56    | 146     |
|                     | 5果   | 3花房 | 23         | 65  | 30 | 13 | 12  | 1   | 88          | 55    | 143     |
|                     | 無    | 3花房 | 28         | 75  | 27 | 11 | 11  | 0   | 104         | 49    | 153     |
|                     | 無    | 無   | 28         | 60  | 22 | 11 | 8   | 1   | 88          | 42    | 130     |
| サマ-ル <sup>o</sup> - | 5果   | 無   | 2          | 92  | 20 | 61 | 6   | 31  | 94          | 119   | 213     |
|                     | 5果   | 3花房 | 2          | 83  | 24 | 58 | 17  | 36  | 85          | 134   | 219     |
|                     | 無    | 3花房 | 6          | 91  | 33 | 59 | 39  | 35  | 97          | 166   | 263     |
|                     | 無    | 無   | 0          | 131 | 25 | 61 | 20  | 29  | 131         | 136   | 267     |

### 耕種概要

調査年次:イチイ入138(2007~2008年)、サマ-ル<sup>o</sup>-(2008年)

収穫期間:6月下旬~11月下旬 栽植密度:株間20cm千鳥2条植(1,100株/a)

定植日:2007/5/2、2008/4/17(冷蔵苗を9cmポットで1ヶ月間養成)

芽数:7月中旬まで3芽に制限し、以降は放任

施肥:OKF-1の1液方式による点滴かん水施肥(EC0.4~1.0)

栽培槽:不織布を用いたハンモック式栽培槽、畑土粗殻混合培土を株当たり約3L充填